

「あおもり家庭教育アドバイザー養成講座 第5回」

中南地区：令和6年10月17日（木）弘前市総合学習センター 10名

下北地区：令和6年10月24日（木）下北文化会館 10名

1 内 容

【講 義】「今、親が悩むこと～親子のコミュニケーション～」

講師 柴田学園大学生生活創生学部 こども発達学科

講師 はぎだ い み き 萩 臺 美 紀 氏

【演 習】「あおもり親楽プログラムⅢ」

進行 県総合社会教育センター職員

【経 歴】

岩手大学人文社会科学部を卒業後、東北大学大学院教育学研究科博士課程を修了。在学中から臨床心理士として教育や医療の現場で相談活動に携わっている。

2020年から柴田学園大学生生活創生学部こども発達学科助教として勤務し、現職に至っている。専門は臨床心理学、家族心理学であり、家族コミュニケーションに関する研究に取り組んでいる。学外では、八戸平和病院、柴田学園大学附属柴田学園高等学校においてスクールカウンセラーとして臨床心理的援助を行っている。



【講義要旨】

- ・親子のコミュニケーションでは、子どもが自立できるかという不安から親から子への統制的・指示的な関わりが多くなり、子どもの自信の喪失や関係性の悪化につながる恐れがある。
- ・子どもの自立性を促進するには、エドワード・デシが提唱した自己決定理論を活用することができる。具体的には、自律性、有能感、関係性の3つの基本的欲求を満たすような関わりを意識することが大切である。
- ・人間は、問題・短所に意識が向いてしまい、関わり方が否定的になる。「人間は多面体」という意識をもち、輝く側面を見つけ、褒めることが大切である。
- ・健康的な家族の形とは、世代間の境界が明確であることである。縦の関係より、横の関係がしっかりとしていることが望ましく、重要なことは両親が決めることが大切である。
- ・家族集団の各ライフステージでの発達に伴い、生じる葛藤や課題を乗り越えていくことで家族が成長していく。その都度、家族のルールを変更・再構築することが必要である。

2 受講者の感想

- ・我が子の問題行動や短所に意識が向いてしまっていたことに改めて気づけました。光り輝く側面を意識しながら思いやりを持った言葉をかけることで、子どもとの関係を振り返り、大切にしたいと思いました。
- ・親の世代の役割が大切だと思いました。子どもの長所を引き出してきただろうか、と自分の子育てを反省してしまいました。固定的な考えにとらわれるのではなく、いろんな方向から考えていけるようになりたいと思いました。
- ・良いところを捉えて褒めることや家族のつながりについて健康な家族の距離をもつことの大切さを学びました。子どもの成長に応じた、親や家族の関わり方のポイントについてお話を聞けて良かったです。